

アジアから学ぶ 中国ビジネス

文・写真：須賀努〜コラムニスト、アジアンウオッチャー。寺子屋チャイナ主宰 www.yyisland.com.yy/terakoyachina

撮影：佐渡多真子



済南にある日本総領事館跡

第8回

華人の投資尺度

数年前に遼寧省瀋陽市に行つたことがある。日本人が遼寧省というところと直ぐに思いつくのは大連であり、当然瀋陽よりも発達し、都市としての実力も上だと考えがちだ。だが省の都は瀋陽であり、それほど発展しているように見えなかった。瀋陽の方が中国では格上であると言われて戸惑つた。瀋陽にある香港系の大手不動産会社を訪ねると、「実は目抜き通りの物件は既に殆ど、香港、シンガポール、マレーシア、フィリピンなどの有力華僑に抑えられている」と言われて驚いた。華人の投資は見た目ではなく、その流れを読んでいるというのだ。「中国東北方の中心はどこだろうか」と考えた時に、彼らの見解はほぼ一致して「瀋陽」だった。中国人の石炭長者なども瀋陽への投資を増やしていた。

先日山東省済南市に行った。これまた良く誤解している日本人が多いが、沿海部山東省の省都は青島ではなく、済南である。ただ先程の瀋陽と違うのは、済南は今でもあまり発展していないことだろう。高速鉄道、北京〜上海線の開通により、ようやく目が覚めたように開発が始まった街である。ここには戦前日本総領事館が置かれ、日本人数千人が住んでいたというが、今や滞在する日本人は殆どいない。だがこのような都市にも目を付けているのが香港系企業、香港人だ。街の中心にあるショッピングモールは香港のハンルングループの名が付いていた。ビル内にはテナントとして、ユニクロと無印良品が既に店舗している。ユニクロは香港系の手法を真似て中国展開をしているとも囁かれおり、その動きは香港勢と歩調をそろえているのかもしれない。

香港の最大手財閥の不動産投資部長を訪ねたことがあった。日本の不動産への投資をヒアリングに行つたのだが、かの部長は一言、「なぜ我々が日本の不動産に投資しなければならぬのか、その理由を端的に説明してくれ」と冷たい視線で我々を見た。そしてこちらがゴタゴタと理屈を並べているとある表を見せられた。そこには何と世界100か国の主要都市の場所と不動産投資の投資リターンが一覧になつていた。上位の方を占めていたのは、我々が普段お目に掛からないようなカリブ海の島やアフリカ中央アジアの都市だった。

「我々の投資はある国、一国だけを注視して行うことはない。中国とても例外ではない。東京はこの表のどこにあるんだ」。部長に畳みかけられてグーの音も出なかった。敗北感にまみれて出口のドアを開けようとした時、背後から声が響いた。「誤解するな。我々事務局は表を作るが、数字はあくまでも参考値、これに将来の見通しを加えて上司に提出、最終的に投資を



決めるのはオーナー。全ては彼の直観力と情報網に掛かっている」。日本企業でこれだけ幅広い視野で投資（不動産も工場建設も投資）を決めている所は恐らくないであろう。中途半端な判断や自分での殻を破れないで失敗するくらいなら、いつそ華人の投資に乗っかって行く手法もあるのではないかと。ただその場合、リスクの考え方が異なるので、投資額は抑え目にするのが良いと思う。

毎週、本誌がお手元まで確実に届く、定期購読（有料/1年間・360円〜）をお勧めします。

ホームページからお申し込みください

小社直送にて購読をご希望の方は、
TEL: +86-755-8351-6250 または
E-mail: pub-manager@kanan.cn
(発行局宛)へ。クーリエにて毎月配送いたします。
<http://www.kanan.cn/upimg/youliao.pdf>

【日系企業の文化・習慣を学びたい
中国人社員にも人気です】

HKM